

溺水したてんかん児2例 ～てんかん関連死を防ぐための対策～

つかもと かず き たき がわ りょう
束 本 和 紀 瀧 川 遼
たけ たに たけし
竹 谷 健

キーワード：溺水，てんかん，てんかん関連死，知的発達症，生活指導

要 旨

てんかんをもつ患者はてんかん発作によって日常生活に支障が及ばないように、内服管理、睡眠時間、活動内容などに細心の注意を払っている。それでも予期せぬ場面でてんかん発作が起こることへの不安は尽きない。溺水したてんかん児2例を経験した。症例1：8歳男児。バルプロ酸単剤で4年5か月間てんかん発作はなかった。一人で入浴中に溺水した。症例2：11歳男児。Dravet症候群で抗てんかん薬3剤内服中であった。海岸で目を離した間に溺水した。2例とも知的発達症を合併していた。2例の共通点は患児自身がてんかん発作の危険性を自覚できていなかった点である。日常生活に介助を要する知的発達症をもつてんかん児の場合。てんかん関連死を防ぐために、てんかん発作は場面によっては命に関わることを、入浴時は必ず同伴すること、水辺の活動時にはライフジャケットを着用すること、を繰り返し家族へ生活指導する必要がある。

はじめに

溺水を含む不慮の事故で亡くなる日本の子どもは毎年300人前後にのぼる¹⁾。不慮の事故による死亡の内訳をみると、1-14歳では交通事故に次いで溺死・溺水が第2位を占めている。溺水事故の場所にも年齢の特徴があり、1-4歳では浴槽内、5歳以上では海や川など屋外で多く発生している²⁾。てんかんをもつ患者は内服管理、睡眠時間

の確保、運転、水上・水中・高所での活動などに常に気をつけているが、てんかんをもつ患者の死亡率は一般集団より高い³⁾。てんかん関連死には、てんかんにおける原因不明の突然死 (Sudden unexpected death in epilepsy : SUDEP)、事故、てんかん重積、溺水、自殺 (自死) などがある⁴⁾。命に関わる事故を防ぐために生活指導は重要である。

症 例

症例1：8歳1か月 男児

基礎疾患：焦点てんかん，多発奇形症候群，知

Kazuki TSUKAMOTO et al.

島根大学医学部小児科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部小児科